

(5) 農業分野におけるICT、ロボット技術の活用例

無人草刈りロボット

産業技術総合研究所、太洋産業貿易(株)、(株)筑水キャニコム、など

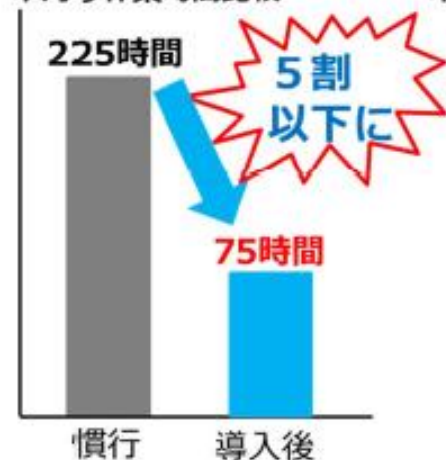
- 従来の乗用型草刈機(1台100万円程度)を最小限の機能に絞り込み、小型の無人草刈機として、半額程度(50万円)となるよう開発。
- これにより、規模拡大の障害となる雑草管理を自動化し、労働力不足を解消。

<負担の大きい草刈りを無人化>

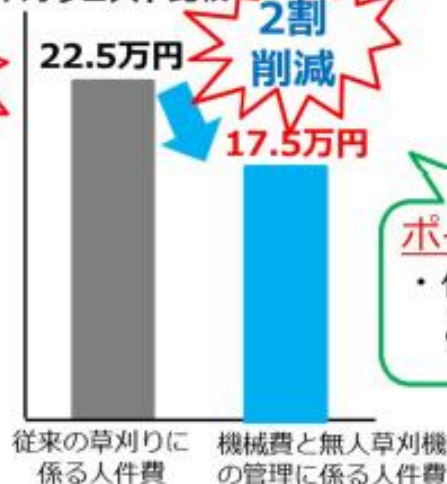
(作業時間とコストが削減)

中山間地域の生産法人(水田面積15ha)の畦畔3haの除草を実施した場合(推計)

草刈り作業時間比較



草刈りコスト比較



(無人草刈機の作業性は乗用型草刈機と同等)

(現在の草刈り)



(無人草刈機)

(イメージ)



ポイント①

- ・作業時間が減ることにより削減

ポイント②

- ・緩斜面の除草作業が可能
- ・乗用型草刈機と比べて遜色ない能力

28年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」において開発中

H32年度以降実用化